

建館寄付記と増築寄付記

建館寄付記（書き下し文）



我が大阪は関西の雄府にして、人口百万、財豊かに物殷んにして、諸学競い興る。而して図書館の設独り焉を闕く。是に於いて、府庁、建館の議有り。某、自から揣らず、図書館一字暨び図書財本若干資を献じ、もって微力を効さんことを請う。府議して之を納れ、明治三十三年十一月に起工し、三十七年一月に至って成れり。夫れ、宇内の交通、五州の貿易経済の術は、商工より急なるは莫し。而して大阪は商工の淵藪と称す。斯の館に入る者は、仰いで国家の盛運を思い、俯して我が府の富源を察し、之を培い、之を養い、諸学理に参じ、益功を将来に収めよ。庶幾くは、府庁建館の議に負かず、某も亦余榮有るに与らんことを。従五位住友吉左衛門識す。

【撰】 重野安禪氏 【書】 岡本隆徳氏
 【铸造】 東京美術学校 (現 東京芸術大学)

増築寄付記（書き下し文）



竊に、某、本館暨び図書財本を本府に納め、聊か効を報ぜり。其の端末は銅に記して上に扁ぐる如し。事は二十季前に在り。今や牽運旺んにして、教化行わる。入館の士子咽を埒め、設備窄狭を告ぐ。本府の慶為らざるべけんや。是に於いて、府庁の允許を得、館の左右各の新館一字を増築し、規制を恢張す。工は大正十年一月に興し、翌年十月に訖りて竣す。今よりして後、士子閱覽に便にして、精研洞究、昭代休明の化を黼黻するは、独り某の素願に愜うのみに非ずして、其の本府を埒し、国家を益すること、蓋し淺鮮ならざるもの有らん。夫れ、府庁建館の議の若きは前に記備われり。茲に之に及ばずといふ。従四位勲二等男爵住友吉左衛門識す。

【撰】 永山近彰氏 【書】 杉山令吉氏
 【铸造】 東京美術学校 (現 東京芸術大学)
 *2つの大銅板額は、第15代住友吉左衛門氏の寄付

目 次

一年の歩み・沿革	1	ビジネス支援サービス・図書館協力業務	7
組織・現員表・業務の概要	2	大阪資料・古典籍サービス	8
大阪府立図書館協議会	3	講座	8・9
平成20年度当初予算・利用状況	3	蔵書	10
敷地・建物・建物平面図	4	主題文庫・目録	11
閲覧室の状況・各室案内	5	協賛・協力事業	12
ビジネス支援サービス	6		